

派遣先所属 福島県 県南建設事務所  
氏 名 小川 弘 (おがわ ひろし)  
勅使河原 史寿 (てしがわら ふみとし)  
派遣期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

### (1) 派遣の実績及び派遣先の概要

埼玉県の土木技術職員の福島県への派遣については、平成23年4月から平成23年6月まで1ヶ月交替で県北建設事務所に、平成23年7月から平成24年3月まで3ヶ月交替で、平成24年4月から1年交替で県南建設事務所に配属されており、今回で11班目となります。

県南建設事務所の主な業務については、事務所の位置する白河市と周辺の4町4村（下図赤色区域）を管轄区域として、道路、河川の整備及び県営住宅の管理を行っています。

現在、当事務所における他の自治体からの派遣職員は、埼玉県からの私たち2人のみです。



### (2) 派遣業務の内容

#### ア 復興公営住宅の整備 (担当：小川)

復興公営住宅とは、原子力災害により避難指示を受けている方が低廉な家賃で入居できる公営の住宅です。

福島県は、平成26年度から平成29年度までに復興公営住宅を4,890戸整備する計画を策定しており、当事務所においては、白河市内に40戸整備することとなっています。

当事務所では、復興公営住宅の整備を事務所全体で迅速に推進するため、「復興公営住宅整備促進チーム」を編成し、所長を筆頭に関係各課のメンバーが連携して業務に取り組んでいます。

その中で私の担当業務は、復興公営住宅の造成工事に関する設計、積算、工事監理及

び住宅建築工事との調整です。

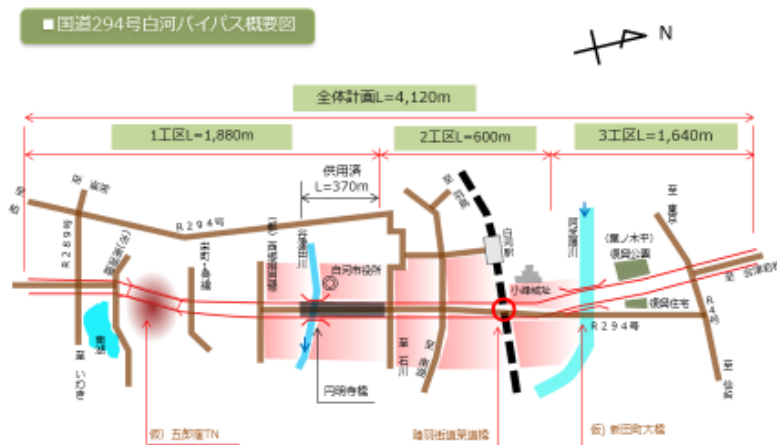
現在、現場の状況については、宅地、道路、下水道及び水道の整備がほぼ完了し、住宅の建築工事が進められています。

#### イ 国道294号白河バイパスの整備促進（担当：勅使河原）

「国道294号白河バイパス」は、白河市の中心市街地の活性化・交通の利便性や防災機能の向上・物流の効率化等から、県南管内において最も重要とされているバイパスです。

平成7年度から事業に着手し、地域の方々とルート・整備手法等について協議を行ってきましたが、震災復興のシンボル事業として、平成26年度から本格的に用地買収に着手しました。

このバイパス事業を加速的に進め、復興の槌音（つちおと）を響かせる事が、県南地域の住民に将来への希望を与える事となることから、県南建設事務所では、バイパス事業に特化した専属チームを発足させました。バイパスチームの一員として事業に携わり、技術職員という立場から、主に事業の調査・設計・調整、用地取得の交渉補助等を担当し、精力的に事業を進めているところです。



本人 右から3番目

(3) 実際に従事してからの感想

福島県の今年度の一般会計当初予算額は約1兆8819億円であり、埼玉県と同予算額を超えています。このうち、震災及び原子力災害への対応分は全体の約6割です。予算の編成を見る限り、福島県は、いまだ復興の域を脱していないと感じられます。

このような状況から、全国の自治体による支援については、今後も続ける必要があると思います。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

先日、復興公営住宅の先行している事例の視察のため、会津若松市へ出張しました。

画像は、復興公営住宅の建築工場の状況です。

福島県内の各地でこのような復興公営住宅の整備事業が行われており、震災から5年を経た今も、仮設住宅等で長期避難している方々のために、一刻も早い整備が求められています。

